

## 地域包括ケアネットワーク No.45

### 都窪医師会の包括ケアへの取り組み

都窪医師会 担当理事 赤司 浩二郎

以前の投稿で、包括ケアへの取り組みがまだなされてなく、これからの課題であるとの報告をさせていただきました。あれから2年経過し、少し動き出した都窪医師会の取り組みを報告したいと思います。

去年の6月より都窪医師会として、包括ケア推進委員会という名の組織を立ち上げ活動を始めました。当医師会の特色として、三つの行政と地区に分かれ、医師会としてのまとまりは良いのですが、行政の絡んだ活動がしにくいこと、また医療機関と介護施設にも恵まれ、あまり苦勞せずに医療活動ができていて、組織だった包括ケアの必要性に迫られていないことなどから、取り組みが遅れていたように思います。

毎月一度、火曜日の夜に、理事を中心として介護ケアに興味のある先生方を交え活動を始めました。

現在までに、包括ケア推進委員会を4回開催、意見交換会として3回（ケアマネジャー・訪問看護師・病院と診療所）開催、講演会を2回（幸せな最期を迎えるためのアドバンスケアプランニングとは？・市域包括ケアシステムのグランドデザインに向けてーリハビリテーション分野からの問題提起ー）、意見交換会には毎回50名程度、講演会には100名程度の参加者があり、包括ケアに対する医療・介護関係者の関心の高さがうかがえます。まだ1年に満たない活動ですが、多職種間で顔を合わすことで、介護や看護に対する問題点や考え方の相違などが、徐々にではありますが見えてきたり、基本情報となる患者さん情報の共有化やそのツールの必要性など、また市民への包括ケアの周知の必要性と行政の役割の必要性などにも気づいたところであります。

まだなにぶん手探りの状況で、意見交換会は、行政担当者や医療関係者（歯科医師、薬剤師、理学・作業療法士）、さらに市民の立場を知る地区の役員や愛育委員などとも行うことも考えられ、講演会も医療関係者を対象としたものから、市民も巻き込んだものも考えられますが、それには行政との連携が必要かもしれません。岡山県下を見渡すと、いくつか先進的な取り組みで素晴らしい活動をされているところがあります。それらの事例を参考にさせていただくことも考えられますが、都窪医師会としては今の活動を続けていき、医師会員への理解と協力をお願いしつつ、具体的に国の政策として包括ケアシステムが動きだした時に、スムーズに参加できるよう、包括ケアシステム構築の下準備をしていきたいと思っています。